

食育推進プロジェクト実施報告書

支部名 東京都

実施担当会員社名	(株)日本農林社	
実施校名	東京都北区立 <sup>ヤバタ</sup> 谷端小学校 3・4年生 各1クラス 合計37名	
実施期間	平成21年3月～11月	
栽培品目(品種)	トマト、ミニトマト、キュウリ、ナス、オクラ、ピーマン、カボチャ、スイカ、エダマメ、サツマイモ、ニンジン、滝野川ゴボウ、青首ダイコン、亀井戸ダイコン、落花生、キャベツ等	
提携協力先	滝野川種苗株式会社(岩田社長様)	
実施概要	時 期	内 容
	3/下	特設花壇組み立て→培土入れ
	4/上	花壇準備
	5/上	果菜類、エダマメ、キャベツの定植実習
	5/中	滝野川ゴボウ種蒔き、果菜類支柱等整枝手入れ
	6/上	害虫等の駆除
	6/下	果菜類収穫開始
	7/下	近隣地域住民への内覧会実施。区内ケーブルテレビにて紹介される。ニンジン種蒔き
	夏休み	栽培委員、PTA、教職員の協力にて灌水。
	9/上	ダイコン種蒔き
	10/上	ダイコン間引き
	11/下	滝野川ゴボウ、ニンジン、ダイコン等を収穫、調理し、全校にて試食。この模様は区内ケーブルテレビにて紹介される。
学校からの評価	<p>以前から地域の伝統野菜として滝野川ゴボウの栽培には熱心に取り組んで来た同校であるが、日種協の食育プロジェクトによる支援により、他の野菜にも積極的な取り組み(予算、指導)が実現され規模・設備が充実したと非常に好評である。今後の課題は、今年の実践を踏まえ、学校と言う特殊な環境の中で栽培し易く(耐病害虫)、児童が食べ易い野菜(ミニトマト等)の選択、絞込みが必要と考えられる。また、栽培技術の向上や拡大した設備の維持と充実、近隣地域の理解が必要と思われる。</p> <p>また、区の教育委員会も視察に訪れるなど、役所からも関心と期待が高く、PTAを含む関係者も次年度にかけの意気込みが強い。</p>	

<p>児童からの声</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 採りたての野菜がこんなに甘くておいしいと思わなかった。</li> <li>・ 自分たちが育てた野菜を食べられる事がうれしい。</li> <li>・ 野菜の育ち方がわかって面白かった。</li> <li>・ もっと、もっと沢山栽培したい。</li> </ul>
<p>実施担当者の感想 今後の課題・要望</p>	<p>当該学校長からも求められている事ではありますが、関わった教職員も初年度は手探り状態であり、経年する事により技術も、理論も伴う事が多く、単年で成し得るには難しいので、複数年の予算、プランの継続を求められています。</p> <p>また、食育が叫ばれる中で、都内における給食事情はそれと反する状況となっています。それは、近年問題となっている〇157の事故以来、給食の現場では、加熱処理されたもの以外は、児童に食わせる事が禁じられています。したがって、もぎたてのキュウリ、トマトなど生食による、楽しみを経験してもらえなかったのは大変残念でした。今後は教職員のみならず、役所、PTA、地域等の理解と協力が得られる様な環境作りを考えたいと思います。</p> <p>結論として、食育の関心は非常に高く、本事業の初期から校長自らが食育の重要性を認知し、積極的に野菜栽培の現場から各方面（役所、教育委員会等）に働きかけをして下さった事が成功の鍵となりました。関係者による熱意の差が事業の成否を左右すると実感致しました。</p>

食育推進プロジェクト実施し報告書（平成 21 年度）

支部名 東京都

実施担当会員社名	(株)進藤総合園芸センター
実施校名	立川市立第九小学校
提携協力者	梅田 守男
実施期間	春作 5月—8月、 秋作 9月—12月
栽培品目	春作 ナス 秋作 ダイコン
実施概要	別紙
学校からの評価	別紙
児童からの声	別紙
実施担当者の感想 今後の課題・要望	<p>効果について：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：学童が嫌いだった野菜を食べるようになった。学童が自分達で作ることの重要性が明確に出た結果となり、食育プロジェクトが教育現場で効果有ることが実証された。</li> <li>2：本校では、給食に使用・家庭への持ち帰りの他、児童に直賣所での販売体験を実施した。その結果、顧客に対し、自分で栽培した野菜を、先生の指導がないにも拘わらず、自主的「これ、美味しいですよ」と言いながら販売を行った。実社会経験を積むよい機会提供となった。</li> <li>3：直賣所の販売は、代金授受・売上計算等で、算数の学習に好結果がでて、教員もその成果に喜んでいる。</li> </ol> <p>・感想：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：今回は、指導協力者に、学校に隣接した農地所有者を得たことが成功の要因の一つ。 農地のない学校での栽培指導は、場所の確保、資材の準備等で学校側の受け入れ態勢づくりに問題を生じ易い。</li> <li>2：ナスについては、育苗過程を省略して、苗の定植から開始した。小人数の家族経営の小売店にとって、定植指導が苗繁忙期と重なるので、栽培指導協力者なしでのプロジェクト実施は難しい。</li> </ol> <p>・課題と要望：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：食育プロジェクトは、事情の許す限り、受入側の、ノウハウ蓄積・継承上も、同じ学校で継続実施が望ましい。</li> <li>2：第九小学校より、継続希望が寄せられている。品目は学校側と打ち合わせ、22年度の計画を早急に決定したい。</li> </ol>

なす

提携協力者	梅田 守男	
実施概要	時期	内容
	5月上旬	定植実習
	7月中旬～ 8月	収穫体験
学校からの評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収穫が夏休みにかかり、学年ごとに、収穫体験をする。親子で楽しむ姿も見られた。</li> <li>・ きらいななすも、自分で育てたことにより、食べることができるようになったと、親から高い評価を得ている。</li> <li>・ 食べ物に対して、新しい発見をすることができた。</li> </ul>	
児童からの声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏休みに親子で、なすの収穫ができて嬉しかった。楽しかった。</li> <li>・ 嫌いななすが、食べれるようになった。</li> </ul>	

大根

提携協力者	梅田 守男	
実施概要	時期	内容
	9月上旬	種蒔き
	10月上旬	間引き
	11月下旬～ 12月	収穫体験、九小祭の豚汁に使用し、地域の方に 200 本提供する。大根掘りを体験し、一人一本持ち帰る。
	12月9日	給食ののっぺい汁の食材として使用(30 kg)
	12月上旬	お世話になったシルバーさんにプレゼントする。(1年生)
学校からの評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学年で種蒔きをし、収穫体験を通して、収穫の喜びを味わうと共に、作物に対して身近に感じるようになった。</li> <li>・ 自分で育てた大根を、九小祭で提供することで、地域や保護者にも喜んでもらえている。</li> <li>・ 給食センターで育てた大根を調理していただき、お礼の手紙を送る。給食センターからお礼の言葉をいただき、児童に感謝の気持ちと思いやりの心を育てることにつなげている。</li> </ul>	
児童からの声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一番に大根を食べた。家で食べる大根よりも、柔らかいしとてものっぺい汁と合っていて、新鮮で甘くておいしかった。やっぱり自分で種蒔きした方が、おいしかった。</li> <li>・ 大根掘りでは、お母さんが喜んでくれるかなと一人一本、家に持って帰りました。</li> </ul>	